

# 学都屋台食談

第8回

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観：人生観を、石川県に拠点を構える企業経営者や大学学長らが講師となり、講師の経験をもとに学生と語る「学都屋台食談」が11月10日から12月2日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催されました。2006年から今年で12年目を迎え、講師と県内の大学に通う学生が和やかに繰り広げた食談で、講師が学生に熱く語られたメッセージを紹介します。第8回は栗森昌哉・キリンビール北陸支社長。

## 金沢の美しい街並みを肌で感じ多くの人と出会って交流を

私は高校を卒業するまで金沢で育ちました。会社に入ってから全国各地で勤務し、さまざまな街の姿を見ました。その経験から思うのは、金沢は行政と民間企業、住民が一体となって、街並みや伝統文化を守っていかうとする意識が高い街だということです。

幸運にも戦火に遭わなかった金沢は、ひがし茶屋街や主計町茶屋街、長町武家屋敷跡といった歴史的建造物が数多く残っています。それだけでなく、金沢の武家文化は独自の美意識を育み、戦後の高度経済成長期における都市開発の波にもあらがひ、結果として新旧が調和した美しい街並みが生まれたわけです。

このような環境で学生時代を過ごすことができるわけですから、金沢という街を自分の肌で感じてください。そして、この機会に、いろんな人たちに会うことも大切です。現代はSNSでさまざまな人とつながりを持てますが、実際に顔と顔を突き合わせることで、コミュニケーション力を磨いてほしいですね。

## 相手が求めることを「引き出す力」あきらめずに心の壁をたたく

そのコミュニケーション力が試されるのが「営業職」です。長年、私は営業を担当してきましたが、皆さんは仕事の内容を単にお客様に会って話せばいいと勘違いしているかもしれません。実は、目の前にいるお客様と話しながら、考えていることや思っていることを「引き出す力」がとても大事になります。

相手が何を求めているのかが分からなければ、適切な品物やサービスを提供することはできません。このようなスキルは、学校の先生であつても、医師であつても、あらゆる職業で必要となりますので、身につける努力をしてください。

ただ、本音を引き出すのはとても難しいと言えます。初めて会う人が、簡単に心を

開いてくれるでしょうか。明らかなメリットがないかぎり、見ず知らずの相手を警戒し、関わり合いたくないと考えるのが普通です。そのような心の壁を壊すには、あきらめずに壁をたたき続ける強い意志を持つてください。そして、相手の心にそっと寄りそうことが大切です。

## 話や本で人生経験を豊富に夢に向かってステップアップを

ところで、経験こそが自分を成長させてくれる源でしょう。経験を重ねる上でポイントとなるのが、目的を持つことです。仕事も遊びも取り組むからには、達成したい目標を設定してください。

例えば、ランニングならばマラソン大会に出場するといったような目標です。目指すゴールがあれば、同じ時間を過ごしても結果とプロセスが大きく変わっていきます。経験値を上げるには、自分で経験する

だけでなく、いろいろな人に話を聞いたり、本を読んだりする方法があります。そうしなければならぬのは、自分で経験できることにはどうしても限界があるからです。ほかの人の人生を自分のものにできれば、もっと豊かな人生を描けるでしょう。

5年後、10年後、20年後、大学時代に自分がいつまでに何をしたいのかを考えておくことをお勧めします。着実に人生をステップアップしていく中で、皆さんの夢が実現することを願っています。



参加生

前列左から大西泰歩さん(石川県立大学3年)、中山奈奈さん(金沢大学2年)、後列左から鈴木博隆さん(金沢星稜大学2年)、清水悠仁さん(金沢大学6年)、久保田篤志さん(金沢工業大学3年)

企画/榎都市環境マネジメント研究所

# 何事も目標を決めて取り組む



講師

キリンビール株式会社  
北陸支社長

栗森 昌哉氏

あわもり・まさや

1961年石川県金沢市生まれ。新潟大学経済学部卒業後、キリン・シーグラム株式会社に入社。96年からキリンビール株式会社に移り、同長野支社長やキリンビールマーケティング株式会社広島支社長などを経て、2016年4月から現職。



ストップ! 未成年者飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。あきびんはお取扱店へ。キリンビール株式会社

KIRIN